

講演会・カンファランス等のご案内

北九州地区小児科医会のご案内

※10月まで中止の予定です。

産業医科大学カンファランス・セミナー

産業医科大学小児科セミナー

日時：10月22日（木）18：00～

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

演題：発達検査・知能検査

演者：産業医科大学小児科 石井雅宏先生、福田智文先生
柴原淳平先生、五十嵐亮太先生

産業医科大学病院臨床心理検査室 岡田 都 先生
加久 綾 先生

当日は現地とWeb配信のハイブリッドで開催いたします。

Webでの参加をご希望の先生は、

j-syoni@mbox.med.uoeh-u.ac.jpまでご連絡願います。

後日、参加方法の詳細をお知らせいたします。

10月の産業医科大学小児科クリニカルカンファレンスは
お休みです。

その他講演会などのご案内

第430回小倉小児科医会臨床懇話会(Web講習会)

日時：2020年10月22日（木）19:00～

場所：WEBのため、事前申し込み

演題1：「令和2年7月豪雨での球磨地区への災害派遣
の経験(仮)」

演者：国立病院機構小倉医療センター 小児科 中島 康貴 先生

演題2：「当院におけるCOVID-19の診療について(仮)」

演者：小倉医療センター 小児科

<要事前申込> 連絡先:小倉医師会 TEL.093-551-3181

令和2年度第1回乳幼児健診登録医療機関研修会

日時：2020年9月28日（月）19:00～

場所：市立商工貿易会館 2階 「多目的ホール」

演題：「社会環境に応じた育児の必要性」

演者：産業医科大学エコチル調査サブユニットセンター
副センター長 エコチル調査 特任教授 下野 昌幸 先生

保険診療メモ (202008)

ペンレステープとエムラクリーム/パッチ

両者ともに表面麻酔剤に分類され、注射や処置の際の疼痛緩和に役立つ薬剤です。適応は多少異なり、ペンレステープ（主成分はリドカイン）は静脈留置針（翼状針は不可）、伝染性軟属腫の除去、レーザー照射が適応です。採血時や多くの注射は適応外です。投与量（枚数）は年齢によって最大量が決められています。一方、エムラクリーム（主成分はリドカインとプロピトカインの混合）はレーザー照射および注射針・静脈留置針使用時の疼痛緩和となっていて、軟属腫除去には使用できません（パッチも同じ適応です。ペンレステープとともに使用時には適応症・用法用量・重大な副作用を中心に必ず添付文書でご確認ください）。いずれも重要な副作用の冒頭に「ショックならびにアナフィラキシー」の記載がありますし、エムラクリーム/パッチは1歳未満での重篤なメトヘモグロビン血症の記載があります。安易な使用はお控えください。

保険請求についても留意点があります。算定ルール上、麻酔剤を局所のみを使用する場合の薬剤料は検査・画像診断・手術などの項目で算定することになっていて、処置についても平成21年の厚労省医療課からの通達で処置の項目で算定する、とされています。これはエムラクリーム/パッチ（以下、両製剤をまとめてエムラと記載）の発売以前の指示ですが、発売後に厚労省に問い合わせたところ、「両薬剤ともに各請求項目で算定するよう」再確認されています。小児科領域では手術の項目で算定が行われることはほとんどありませんので、伝染性軟属腫は処置の欄で、静脈留置針を使用した点滴は注射の欄で、（エムラのみ適応ですが）採血の際に使用した場合には検査の欄で請求することになります。一部の医療機関で、注射や採血に使用したと思われるエムラを手術（麻酔）の欄で薬剤のみ請求するレセプトがありますが、これは算定ルール違反となります。DPCや小児入院医療管理料を算定している入院患者さんでは検査や多くの注射薬、手技料は包括化されていますので、包括された手技に伴って使用したエムラは別途算定できません。入院管理料に含まれるという解釈です。出来高請求の場合には使用した項目（検査、処置など）の欄でご請求ください。

外来での使用時にも請求の際に注意すべきことがあります。小児科外来診療料のような包括化の場合にはもちろん別途請求できません。出来高であっても、処方箋による院外処方や院内処方で投薬し、「注射（または処置）の1時間前に塗布してください」、などの指示を見かけることがありますが、算定は各項目で行うとなっていますのであらかじめペンレステープやエムラを処方することはできません。薬剤の重篤な副反応のことも考慮し、使用の際には院内で貼付して十分な観察を行ってください。

下記は冬に向かったの再確認です。

医師会などからすでにお知らせが届いていることと思いますが、令和2年6月15日の厚労省からの通達で、臨時的ではありませんが新型コロナウイルスの核酸検出・抗原検出（迅速法）については、小児科外来診療料や小児かかりつけ診療料を算定していても別途請求できる、となっています。これらの検査の供給は現段階では十分とはいえませんが、インフルエンザシーズンに鑑別が必要になった場合、インフルエンザの抗原検出（迅速法）は包括化されますが、新型コロナウイルスの上記検査は「別枠で請求可能」ということとなります。

(福岡県小児科審査員連絡会)

役員会報告 (9月3日：木曜日)

新型コロナウイルス感染症への対応について情報交換・協議を行ないました。

新型コロナウイルス感染症について 9月3日議事録

現在のところ、PCR検査センターがありますが、今後開業でも検査ができるようにということでアンケートがあり、200施設くらいが手を上げている状態です。今手をあげていなくても、後で参加を決めることはできる。

検体採取に関しては、鼻咽頭、唾液があり、唾液に関しては、容器によっては比較的安全に取れるが、外に漏れる危険がある容器もあるので採取に注意が必要で、防護に気をつける必要がある。その場で（外来で）取る必要がある。（自宅ですべてくるのは不可）そうすると、少なくとも、サージカルマスク、PPE等ガウンなどを使用するか、動線をわけるなど必要があるか。場合によっては駐車場等で採取するなどもありでしょう。

第7回COVID-19に関する北九州市感染症対策連絡会が8月10日にあった。新小文字が最初にクラスターとして出てきて、救急の受け入れを停止するなどの措置があったが、かかりつけ患者を見てもらえないなど差別がかなりあった。

また、医療体制に関しては、毎日空床状況を保健衛生局から回ってきているが、逼迫していたが、ここ1,2日は少し余裕が出てきたか。北九州では宿泊施設は東横インが再度契約になっている。とても不便であるが、駅近くが良いが、なかなか手あげするホテルがない。筑後地域では、久留米の東横インも契約されている。ホテルに運ぶのは保健所の仕事になっているので、保健所の人福岡まで連れて行っていたが、不便だが、ホテルは近くはなった。産業医科大学が見ている。

PCR検査センターでは1日40件くらい、FAXもしくはnetで予約をしているが、抽選で外れると、翌日再度申し込みをする必要がある。そういったところを補う意味でもクリニックで検査ができるようにならないかという話である。いま民間の検査機関としては、キューリンの他にも何箇所かある。市の衛生研究所もあり、一日トータル300件くらい SRL, CRCなどもある。

1日40件ということは、一箇所の病院等でできると思うが、なかなか難しいようで。

PCR検査センターに出務において、フル装備はかなりストレスになること。かなり長い間、鼻の中においておく必要がある。小児に関しては、はっきりとはわからないが、当日は14歳が来る予定ではあったが。結局キャンセルになってこなかった。その日は最年少の予約は14歳だった。

冬になると、同時に流行するなどあれば、検査をどのようにしていくのかが、悩ましいところである。PCRの集合契約に関しては話し合われている最中である。

感染拡大に関して、特に良いことは何もしていない。拡大しやすい経済活動は広がっているのに、コロナは減ってきているのがなぜかははっきりわからない。集団免疫を獲得したわけでもないでしょう。今後のインフルエンザやRSVの流行での対応を考えていく必要があるが、難しいところである。

Q：妊婦に関しては、希望があれば、綿棒を口に含んで、唾液をもっていくという事になっているが、そのあたりの検査の対応はどうか？

A：やっていいとは思われるが、市の衛生研究所ではできなくはないようです。そういったやり方をできるようにしていったほうが良さそうであるものの、検査会社により検体採取方法の指示が異なるので、大丈夫とは言えない。統一してもらえるとありがたいのであるが。

また、今後の検体の回収をどうするか。（回れないと言っている検査会社もあるので）佐川急便に依頼するのを検討している。安全なやり方をしていく方法等を検討してほしいところである。PCR検査センターも唾液に移行できていない。試薬が全く異なるので、なかなか十分に行き渡っていない状況があり、移行が難しくなっている。

Q：インフルエンザの治療薬のイナビルネブライザーはどうでしょう。なかなか使用は難しいところでしょうか。

A：薬局での指導も難しいですね。調剤薬局とのディスカッションも必要になるのではないのでしょうか？吸入をかんたんにする、それが、他の人にされてしまって、広がっていくのではないかと。医師会として、その辺の見解を出していただければよいのでしょうか。薬の処方となると、タミフル処方を中心になるのでしょうか。

Q：RSの流行が始まったりすると、小児の吸入に関しては、入院の下気道炎の人に対しての吸入が困っているが、どのようにするか。

胸部CTおよびPCR検査等で陰性になったことを確認した上で、必要な症例に関しては吸入を行っている施設もある。

役員会報告 (9月3日：木曜日)

会員の異動

神義昭先生が令和2年8月4日に享年87歳でご逝去されました。心よりご冥福をお祈りいたします。

楠本守先生が令和2年3月31日閉院され、自宅会員となります。

協議事項・報告事項

1) 報告

2021年1月17日に第57回北九州地区小児科医会総会の予定です。

「新型コロナウイルス感染症へのこれまでの対応と今後について(仮題)」をテーマにシンポジウム形式で行います。

講師：有門美穂子先生(北九州市保健福祉局)

神菌淳司先生(北九州市立八幡病院)

賀来典之先生(九州大学病院救命救急センター)

日本小児科学会専門医更新単位(感染対策)更新の手続きをする予定です。

2) 北九州市医師会報告

母子保健委員会 ペリネイタルビジットの実績報告：

新型コロナウイルス感染症の影響もあまり受けず20件ほどの減少で、指導率は90%以上、指導後のアンケート回収率も上昇し、好評で満足されている方は98.4%であった。

また、令和2年度第1回乳幼児健診登録医研修会は9月28日に北九州市立商工貿易会館において、産業医科大学エコチル調査サブユニットセンター副センター長 特任教授下野昌幸先生に「エコチル調査」についてご講演いただきます。

3) メールアドレスを持たない先生への対応

各地区理事が会報誌をFAXで送り、情報共有ができるようにしました。

4) 会計より：

10月より会費請求を行いますので納入をお願いします。

委員会報告

1. 学術委員会報告：白川嘉継

9月 長崎大学森内先生 MSD 3月に延期

10月15日は中止となりました。

11月19日 子どものこころとの合同例会 小倉医師会館

「子どものこころの外来での面接法」

広島市 医療法人翠星会 松田病院 松田文雄理事長・院長

※11月例会は日にち・開催場所が変更される可能性もあります。後日報告がありますのでご確認をお願いします。

12月17日 塩野義製薬 インフルエンザ関連

佐賀大学 青木洋介先生

1月17日 総会

2月18日 小倉医師会館 サノフィ

日本感染症学会理事、鹿児島大学微生物学 西順一郎教授

演題未定

3月18日 小倉医師会館 MSD

長崎大学 森内 浩幸教授

「Heralding and Hesitancy~新たな定期予防接種ロタウイルスワクチンの予告とHPVワクチンへの躊躇い」

※3月は会場での講演会が困難な場合、WEB講演会、ZOOM等何らかの形で、開催します。

4月予定 小倉医師会館 ノーベルファーマ株式会社

大阪大学大学院 連合小児発達研究科 谷池雅子先生

(仮) 子どもの睡眠

その他委員会の開催がなく、報告はありません。